

溶連菌のキノロン、マクロライドに対する耐性度と血流感染におけるアウトカムに影響する因子の検討:新潟県内多施設、後ろ向きに関する研究の臨床データの研究利用に関するお願い

研究の概要・背景

近年 *Streptococcus agalactiae* および *Streptococcus pyogenes* などの溶血性レンサ球菌におけるキノロン系やマクロライド系抗菌薬に対する薬剤耐性の増加が報告されています。

しかし、その薬剤耐性増加の臨床的影響についての報告は少ない状況です。

そこで、薬剤耐性溶血性レンサ球菌の多施設間における検出状況および薬剤耐性が患者の予後に与える影響を検討します。

試料・情報の利用目的・方法(他機関への提供を含む)

調査項目は年齢、性別、血清クレアチニン、血液培養からの検出菌名と抗菌薬感受性、抗菌薬治療歴、治療期間、指標（アウトカム、死亡または治癒）、qSOFA（呼吸数、血圧、意識状態の変化）発症場所（外来、入院）で評価します。当院の担当者が情報収集いたします。

担当者は、専用の調査シートにて患者さんの情報を匿名化した上で、下越病院の担当者へ提出し、データ分析を行います。

対象者・期間

2013年1月から2018年12月までに、血液培養から溶血性レンサ球菌が検出された全患者さんです。

データ利用のお願いと申し出について

これらの臨床データは通常の診療で記録されたもので、患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本研究に関するさらなる説明をご希望の方、また、本研究において臨床データの利用を希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡ください。研究不参加を申し出られたとしても、患者さんが不利益を受けることは一切ありません。

【お問い合わせ先】

長岡赤十字病院

担当：薬剤部 小林 謙一

〒940-2085 新潟県長岡市千秋 2-297-1

電話:0258-28-3600(代)、FAX:0258-28-9000(代)